

行動連鎖型レッスン計画		標的スキル:	テーブル上の食卓のセッティング
学習者名:		指導者名:	日付:
行動目標: 食事の前に学習者はテーブルに食卓のセッティングをする。			
機能的関連: 領域: 家庭 機能: 自立生活のスキル			
現在の指導状況 [習得する, 流暢にする, 維持する]: 習得 (試行/セット; 毎週取るデータ数): 週2回データをとる			
目標とする習得基準 (データのタイプを特定する: %, 頻度, 反応率, 持続時間など): 70%正解率、スタッフ2人、場所2ヶ所			
現在の刺激制御: 身振りプロンプトから全体身体プロンプトの間でいろいろなプロンプトのレベルを使用している		最終的な合図: 絵/写真のスケジュールに示されている「食卓の用意」	
行動単位型: いいえ [1セットごとの最大回数]		行動連鎖型: はい 連鎖化させる? 逆行連鎖	
1人 vs. 2人制プロンプト?: 1人	プロンプト方略: 全身体プロンプト、部分身体プロンプト、身振りプロンプトのプロンプト階層 (プロンプトの階層、または遅延プロンプトで)間を空ける間隔;		
エラー修正: 標的ステップができない場合はバックステップエラー修正			
自然な強化子 または 付加的な強化子 (課題終了後): 自然: 食べ物、賞賛		2次的強化子 (課題中): 賞賛 (「食卓の用意上手にできたね!」)	
現在の2次的強化子の強化スケジュール: 賞賛、食事に必要なアイテムを2個用意できたことに対して1回の強化 (2:1)		目標とする2次的強化子の強化スケジュール: 賞賛、食事に必要なアイテムを7個用意したことにに対して1回の強化 (7:1)	
般化 (刺激要素): [人々, 場所, 教材, 監督など] 様々な支援者、食事 (例: 朝ごはん、昼ご飯)、お皿の形やお箸、スプーン等、スタッフとの距離間、場所 (例: 教室、台所)		般化 (反応要素): [割合, 正確さ, 強度, 持続時間など.] 食卓の用意をする数 (最高6人分) を変える、課題完了に必要な時間を短縮する	
レッスンの詳細: 食卓を用意するために必要なアイテムを全てカウンターに並べておく。課題分析の最後のステップ以外のすべてのステップをスタッフが完了する。「食卓の用意」の絵カードを学習者に示し、目的のステップを完了するようにプロンプトする。学習者が目的のステップを3回正確に試行した場合、最後から2番目の連鎖のステップを教えることを加える。この順序をすべてのステップが学習者自力で完了できるまで繰り返す。			

[illegible][illegible]